

平成26年3月28日
環境ワーキンググループ事務局

革新的地球環境研究に係る取りまとめ意見

● 各課題の成果の橋渡しを

－「RECCA」や「気候変動リスク情報創生プログラム」のような、実用面でいかに地球観測データを利用していくかという課題と「地球環境情報統融合プログラム」のような地球環境観測基盤技術に関する課題との間で成果の橋渡しを十分に実施し、今まで日本が蓄積していた地球環境に関する研究成果等のデータを国際社会で有用に使えるようしていただきたい。

● ICT研究者の育成も考慮した施策の推進

－DIASのような地球環境情報データベースをよりユーザフレンドリーなものにすべく、ICT研究者の育成が重要。その結果、DIASのデータサイズが縮小され、維持・管理が容易になることが望ましい。

－地球環境情報に関して、京のようなコンピュータシステムだけでなく、それを支えてユーザをつなぐ人材育成をし、供給していくような体制の検討をすべき。

《参考：AP特定時における特記事項》

- －本施策のうち、重点的課題である防災・減災対策への貢献が期待される「気候変動リスク情報創生プログラム」「気候変動適用研究推進プログラム」「地球環境情報統融合プログラム」「グリーン・ネットワーク・オブ・エクセレンス事業環境情報分野」についてのみ、AP特定の対象とする。
- －地球温暖化等に起因する地球規模の気候変動に関して、気候変動予測や気候変動リスク管理、地球環境に関する情報の共有化等の重要な技術を開発する。
- －極端事象の発生を予測する気候変動予測は、防災・減災対策の基礎データとして有効であり、その高度化、高精度化が望まれる。

以上